

学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」



学校だより えのき 11月号



皆野町立皆野小学校 令和6年11月1日 発行

「子供は大人の背中を見て育つ」

校長 坂本 勉

日本列島の北から紅葉前線が南下し、秋の深まりを感じます。霜月を迎え、秋本番です。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、芸術の秋等、何かにじっくり取組んだり、向き合ったりするには、もってこいの季節となりました。

植物の中には、秋に実を結ぶ草木も多く、「**実りの秋**」とも言われます。春に新芽が出てから光や水といった自然の恵みを受けて生長し、花を咲かせて実を付けます。時には、嵐に吹かれたり雨に降られたりすることもあります。それぞれに違った実を結ぶ様子は、子供たちの成長と重なって見えることがあります。



「**親の背中を見て子は育つ**」ということわざがあります。子供は親の姿を見て自ずと学び育つ、という意味です。親子のしぐさや話し方などが似ているのは、まさに親の姿を見て子供が学んでいる証です。

私が小学生の頃、母が書く担任宛の連絡帳や手紙の文面は必ず「**いつもお世話になっております。**」から始まりました。私自身が親となり我が子の連絡帳等を書く際も、必ず「いつもお世話になっております。」から書き始めました。「こう書くのが礼儀です。」などと一言も教えられたことはありません。**母がそうする姿を自然と学んでいたのだと思います。**他にも靴を脱ぐ時は、きちんと揃え端に寄せる。この習慣も、常に玄関の履物をきちんと揃えていた母の姿を見て学んだことの一つです。小学生だった我が子が、お友達の家にお邪魔した際に、「**〇〇くんは、きちんと靴を揃えてえらいですね。**」とほめていただいたことがありました。**私は我が子に「靴をきちんと揃えなさい。」と言ったことは、ほとんどありません。**我が子も親である私の姿を見て学んでいたのでしょう。

子供を育て、しつけるために私たち大人は毎日たくさんの言葉を子供たちに投げかけています。言うことを聞かないと厳しく言葉を荒らげることもあるかと思います。もちろん、言葉で理屈とともに教えなくてはならないこともたくさんあります。しかし、**言葉の力以上に影響力があるのは、子供が日々目にしている大人の行動なのかもしれません。**

今の時代、画像・映像等の視覚情報が子供たちの周りに溢れています。そして、そこに写る大人の姿は必ずしも子供たちの健全な成長に望ましいものばかりではありません。だからこそ、**身近な大人である我々親や教員が、人として正しい姿、行動を見せていかななくてはならないと思います。**

子供たちは見ています。そのことを肝に銘じ、学校生活を通して子供たちが正しく学び成長できるように、全教職員でしっかりと背中を見せていきます。そして、学校でも家庭でも、地域でも同じ背中を見せることができるように、一層の連携を図って参りたいと思います。引き続き本校へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。